

消化器不定愁訴 スッキリ解決で 患者満足度アップ！

消化管は腹部症状を自覚しやすい臓器であり、嘔気、食欲不振、腹部不快感、排便異常など様々な症状を訴えて患者が受診する場面が多い。しかしながら、医師側は不定愁訴をクリアに解決することに難渋されていることと思う。軽度の症状のみで検査を行うと非常に多くの患者に対して内視鏡検査やCT検査を行うこととなり、患者負担や医療経済的にも効率が悪くなる。一方で、全く検査しないと重大な疾患を見逃すことも危惧される。また重い症状の患者に対して各種検査を施行しても器質的所見を認めない場合、不定愁訴のみを軽快へと導く治療に難渋する。患者は症状を自覚していることから治療開始まで長い時間をかけることができず、短期間で適切な診断と治療介入の必要に迫られる。特にクリニックや市中病院ではそのような患者が多く受診しており、一般内科医師や若手医師にとって早期に解決したいニーズが高まっていると思われる。

そこで本特集では、消化器に関連する不定愁訴の視点から症状の評価、行うべき検査、鑑別すべき疾患、治療など医療現場での実務に直結するテーマを企画させていただいた。不定愁訴を主訴に来院された患者に対して「まず何を行うべきか？」「診断のポイントは？」「患者へどのように説明するか？」など実臨床において困る場面を、医師・患者双方とも満足して診察を終えることができるための1冊としている。

総論として、消化器不定愁訴にはどのような症状が存在するのか、その症状に対して行う検査、専門医への紹介のタイミング、見逃してはいけないサインなどを幅広く解説いただいた。また、各論では外来診療でよく遭遇する症状を中心にテーマとして選定しており、患者の訴えに対応した診断、治療を解説いただいた。主要な消化器不定愁訴を背景とした代表疾患も網羅された構成に仕上がっており、日々の診療にお役立ていただければ幸いである。最後に、ご多忙にもかかわらず原稿をご執筆いただいた諸先生に感謝申し上げます。

筑波大学医学医療系消化器内科
土屋輝一郎